

アトムリビングテック株式会社

2025-2026 会社案内

第12次ATOM中期経営計画(要旨)



東証 スタンダード市場
証券コード:3426

企業理念

沿革

経営理念

住まいの飾り職人がつくり出す独創的な商品で、
社会の発展に貢献します

社訓

独り歩きのできる商品づくり

「独り歩きのできる商品」とは、販売に際して、
誇大な表現を添えずとも「ひと目でその価値が伝わる商品」を指します。

社是

創意・誠実・進取

企画開発を旨とする企業として「創意・進取」はもとより、
独り歩きのできる商品であればこそ、販売に際して「誠実」が貫きえると考えています。

- 1903 高橋良助、東京市下谷区入谷町にて家具金物の製造業を創業。
- 1916 高橋良助商店と称し、製造販売を開始。
- 1947 有限会社高橋製作所に改組。
- 1954 法人改組し、東京都台東区に高橋金物株式会社を設立。商標にアトムマークを制定。
- 1987 アトムの商標を新マークに変更し、「住まいの飾り職人」を標榜。
- 2000 アトムリビンテック株式会社に商号変更。ジャスダックへ株式上場。
- 2003 ISO9001(品質マネジメントシステム規格)認証を取得。
- 2006 ISO14001(環境マネジメントシステム規格)認証を取得。
- 2006 中国上海市に現地法人「上海阿童木建材商貿有限公司」を設立。
- 2007 東京都港区新橋にショールーム「アトムCSタワー」を建設。
- 2017 ベトナムホーチミン市に現地法人
「ATOM LIVIN TECH VIETNAM COMPANY LIMITED」を設立。
- 2019 広島市西区に「広島営業所・C/Dセンター」を建設。
- 2022 東京証券取引所の株式市場再編により、新市場区分「スタンダード市場」へ移行。
- 2023 創業120周年。
「SBTイニシアチブ[※]」の認定を取得。 ※温室効果ガス排出削減に向けた取り組み。
- 2024 アトムブランド誕生70周年を迎え、商標をリニューアル。
リニューアルした商標のデザインコンセプトは
「伝統を重んじながら、新たな時代へと進んでいく企業姿勢」。

Atom
Livintech

事業内容

アトムリビンテックは、
家具金物・建築金物など、住宅用内装金物全般の
企画・開発・販売を行なっています。
主として当社が企画開発した商品をメーカーに
製造委託し、「アトムリビンテック」ブランドで
日本国内全域のハウスメーカー、建材メーカー、
家具メーカー、建築金物店など、
1,000社を超えるお客様に販売しています。

※ISO9001に適合した品質管理のもと、
OEM(PB)商品も対応可能です。

住宅用内装金物

ドア錠
丁番
スライド丁番
開き戸金物
引戸錠・南京錠
引戸金物
上吊式引戸金物
折戸金物
室内用アルミ建具
取手・引手
スライドレール
収納金物
家具金物
物干金物
諸金具



Keyword
1

商品のほとんどが
自社開発

企画・開発からデザインまで、商品のおよそ「80%」
が自社設計。絶えず、新たな技術を導入しつつ、「アトム
リビンテック」ブランドの拡充に取り組んでいます。

Keyword
2

未来を先取りする
ファースト精神

独自の商品開発は、まったく新しいアイデアから誕生。
時代を先取りして、お客様のニーズに対応した商品を
生みだしています。

Keyword
3

工場を持たない
ファブレスメーカー

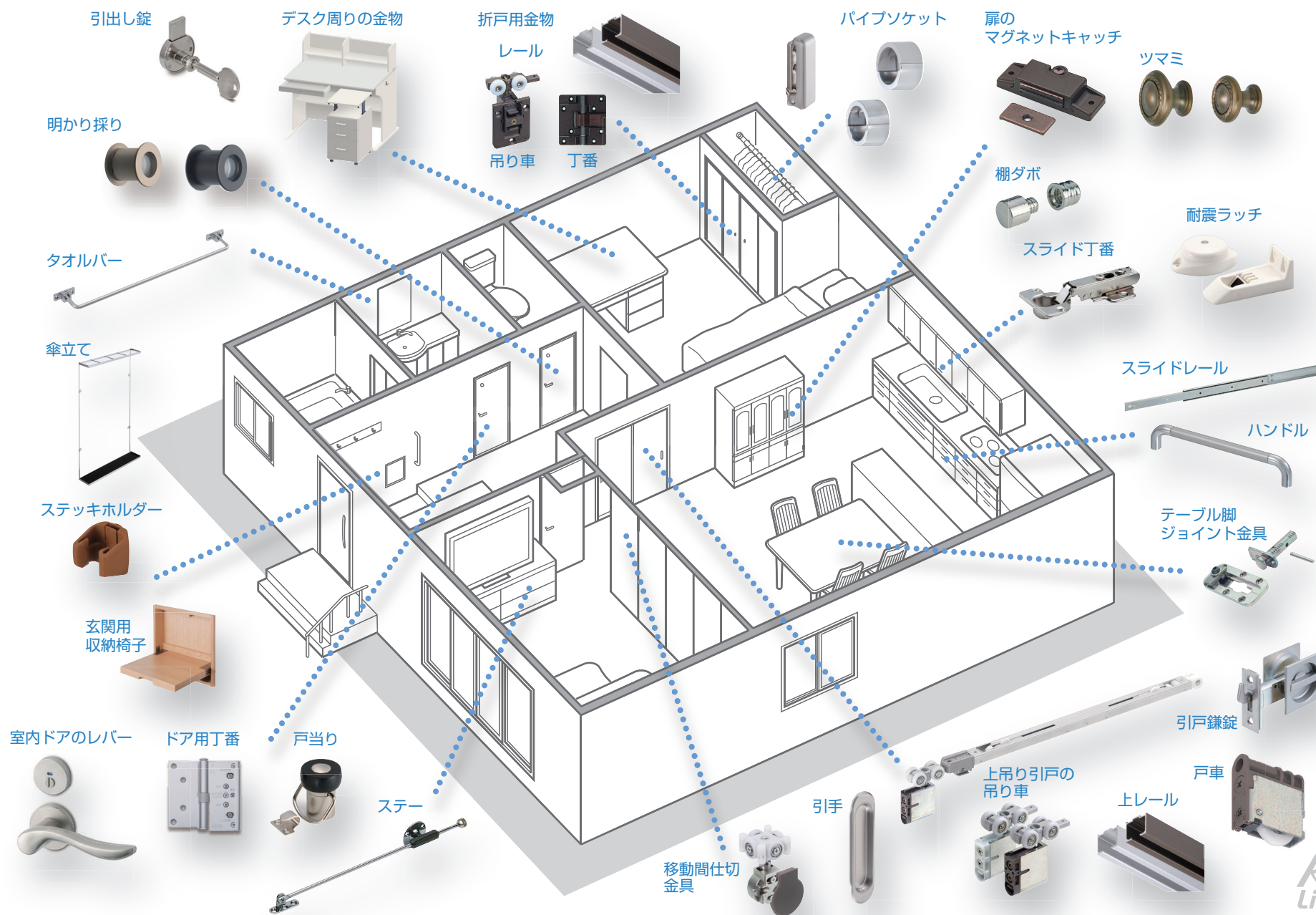
生産ネットワークをフル活用し、自社工場を持たない
ファブレスメーカーとして、独自の事業スタイルを構築。

アトムリビンテックの 特長と強み

住宅用内装金物のパイオニアとして、
3つのキーワードで業界をリードします。

意外なほど身近な商品を企画開発しています。

—— アトムリビンテックの金物は、快適な暮らしを支えています。 ——



会社概要

社名 アトムリビントック株式会社
本社所在地 〒110-8680 東京都台東区入谷1-27-4
 TEL.03-3876-0600 (大代表)

創業 1903年
設立 1954年10月9日
資本金 3億74万5千円
年商 102億9,700万円 (2025年6月期)
決算期 毎年6月30日
事業内容 家具金物・建築金物・陳列用金物等、住まいの金物全般の企画・開発・販売

従業員数 120名 (2025年6月30日現在)
上場取引所 東京証券取引所スタンダード市場 (証券コード 3426)



本社ビル
(東京)



■ISO9001
 当社の品質マネジメントシステムは、国際規格である国際標準化機構 (ISO) の「ISO9001:2000」の認証を取得しております。

■ISO14001
 当社の環境マネジメントシステムは、国際規格である国際標準化機構 (ISO) の「ISO14001:2004」の認証を取得しております。

※当社はISO9001、ISO14001共に、2015年9月に最新の規格が発行された2015年版で認証取得更新しております。

当社のブログを絶賛配信中です。是非ご覧ください▼



Webサイトはこちらをアクセス▶▶▶▶ <https://www.atomlt.com/>



■SBTとは
 「Science Based Targets」の略称で、温室効果ガス排出削減目標のことです。世界の気温上昇を産業革命前より1.5℃に抑えること (1.5℃水準: 少なくとも4.2%削減) を目標としています。

ネットワーク

ショールーム アトムCSタワー ショップ&ショールーム 亜吐夢金物館/アーバンスタイル事業部
 〒105-0004 東京都港区新橋4-31-5 アトムCSタワー
 TEL.03-3437-3440

アトム住まいの金物ギャラリー大阪/大阪事業所
 〒564-0052 大阪府吹田市広芝町18-5
 TEL.06-6821-7281

営業所 札幌営業所
 〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西1-1 マルイト札幌ビル2階
 TEL.011-281-3777

前橋営業所
 〒371-0805 群馬県前橋市南町3-72-7
 TEL.027-223-2651

広島営業所・C/Dセンター
 〒733-0037 広島県広島市西区西観音町8-6
 TEL.082-291-4235

商品本部・集配センター アトムC/Dセンター
 〒340-0022 埼玉県草加市瀬崎4-15-19
 TEL.048-922-5551

海外拠点 子会社: ATOM LIVIN TECH VIETNAM COMPANY LIMITED (ベトナム社会主義共和国)
 子会社: 上海阿童木建材商貿有限公司 (中華人民共和国)



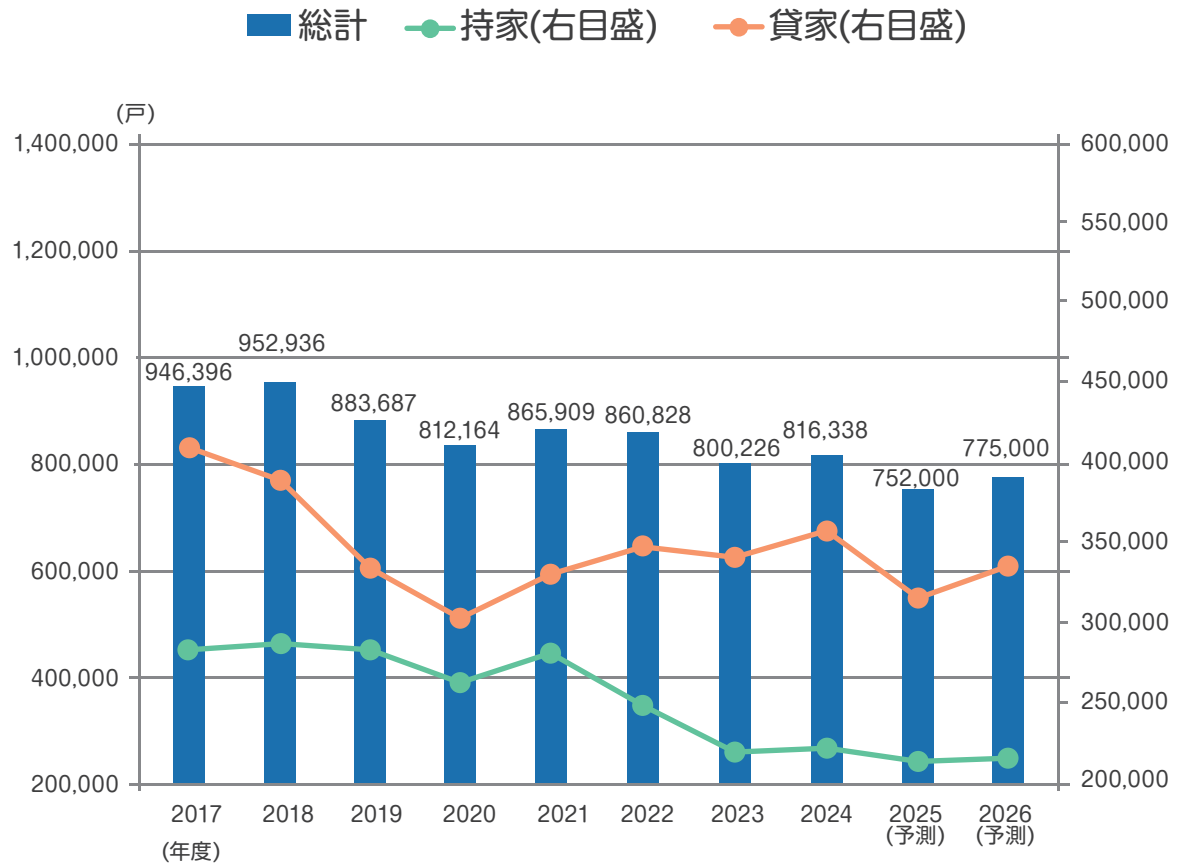
アトムCSタワー

Atom
Livintech

<市場動向> (新設住宅着工戸数)

市場動向

住宅関連業界における状況



(資料)住宅着工統計(国土交通省)
(予測)三菱UFJリサーチ&コンサルティング 2025.06.10付

事業環境 (物価高の影響で高まる節約志向)

- 高齡化社会の到来と医療・福祉・介護施設の整備
- 中古住宅市場の活性化とリフォーム市場の拡大
- ライフスタイルの多様化と「住環境」への関心の高まり

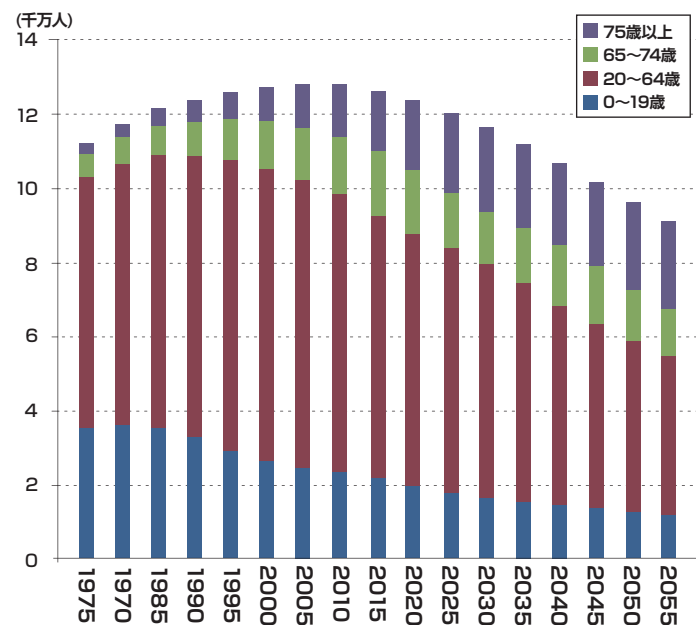
対応商品

- ユニバーサルデザイン商品
- リフォーム関連商品
- ライフスタイル対応商品
(テレワーク・抗菌/抗ウイルス商材など)

年齢別の人口動態(人数)

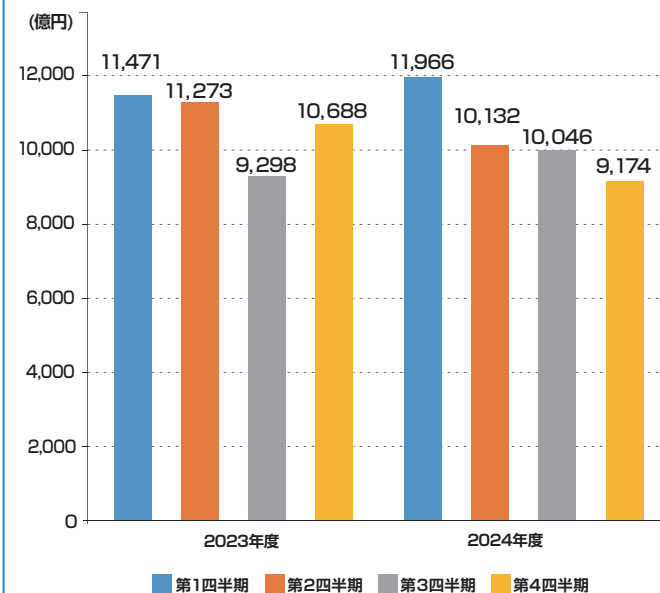
ポイント

- 我が国の人口は急激な少子高齢化を迎え、目標年度の2020年には65才以上が約30%
- さらに、2055年には65才以上が約40%となる。



(出典)国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集」より

住宅リフォーム受注額推移

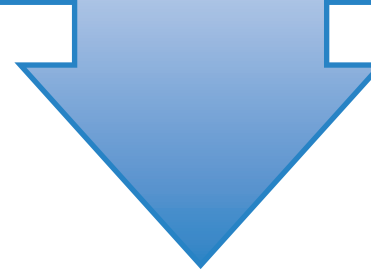


建築物リフォーム・リニューアル調査報告(概要) 国交省発表資料を引用

事業環境

住宅関連業界における状況

- 建設コストの高止まりや住宅ローン金利の上昇懸念は、住宅取得意欲を抑制、カーボンニュートラル実現に向けた省エネ基準適合義務化に伴ない、新たな量から質への転換期を迎えた
- 多様な働き方の導入を契機として、ライフスタイルの変化や豊かな住まい方への関心が高まり、当社の関連する住宅市場は潜在的ニーズの掘り起こしと新たな付加価値の創出が課題



注視すべき事項

- 住宅ストックの流通活性化政策と多様化する生活スタイルや価値観に対応するリフォーム・リノベーション市場の動向
- 各種補助金や住宅ローン減税など、政府による住宅取得支援政策の効果
- 慢性的な人手不足、高止まる資材価格と物流費、地価の高騰など

事業環境

金物業界における状況

- 新設住宅着工戸数は軟調な推移が見込まれる中、内装金物メーカーにおいては、ニーズの掘り起こしと付加価値の創出が大きなテーマ
- 市場規模の縮小による競争の激化に加え、零細な金物屋においては、後継者・人手不足の顕在化とともに、物価上昇の逆風が資金繰りを圧迫、今後さらに淘汰や整理・統合が進んで行くものと見られる

金物業界は変革期を迎えている

- 現場主義に徹した「ものづくり」の原点回帰と自社ブランド商品の裾野拡大
- 全方位営業ネットワークの優位性を活かした市場戦略の推進
- 施設建築分野(店舗・事務所・教育・医療・福祉など)への積極的参入
- 東南アジア市場における新たなフレームワーク構築への取り組み

 **第12次
中期経営計画**
(2024年7月1日
～2027年6月30日)
<企業スピリット>
伝統を活かし、変革に挑む

基本方針

持続的成長に向けた新たな付加価値の創出

経営戦略

「変革」に挑む、 活力ある組織づくり	競争優位性の 確保	ファースト精神の 貫徹	経営環境の変動に 左右されにくい 社内体制と 財務体質の構築	企画開発型企業 としての 付加価値の創出	安定成長を 可能とする 市場優位性の維持 と収益力の向上
将来を見据えた 投資の継続	「内装金物」という 事業ドメインと 「ATOM」ブランド浸透 に向けた取り組み		環境への取り組み	環境・福祉・ ユニバーサルデザイン に配慮した 「ものづくり」の推進	社会性の向上

商品戦略

開発部を主軸にした
現場主義に徹した商品開発の具現化

ソフトクローズの成功に基づく
「ものづくり」の原点回帰

より質の高い「企画開発力」の追求

商品開発を円滑に進めるための
開発体制の連携強化

「秋の内覧会」と「春の新作発表会」を
通じた商品展開と販路拡大の機会創出

市場戦略

商談スペース「LIVIN' ZONE」の
刷新と拡充

CSタワーの活用による
施設建築分野への事業領域の拡大

西日本市場における
物流システムの構築

海外での取り組み

情報システム戦略

統合型業務ソフトウェアの継続的
バージョンアップ（今後の変革にも
対応可能なシステム基盤の再構築）
による業務効率の向上

SNSを積極的に活用した
販売支援ツールの拡充と
ホームページの最適化

未来を担う次世代に向けた挑戦

* 新時代のライフスタイルを創造するATOM CSタワーの有効活用 *

内装金物のトップランナーとしての商品力を
認知していただく視聴覚スペース

情報発信のキーステーション

次世代に繋がる新規ビジネスの創出

〈企業スピリット〉

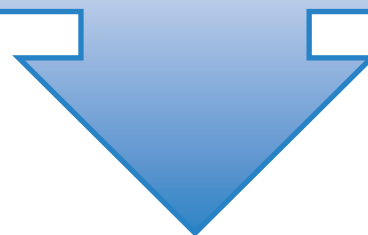
伝統を活かし、変革に挑む

- 「伝統」を活かしながら「変革」に果敢に挑む組織の活力によって、ファースト精神（他社に先駆ける進取の精神）を連綿と受け継いできた結果、つくる力、売る力、つなぐ力など、当社独自の特長的な事業スタイルを構築
- 創業以来、122年の社歴で培ってきた当社独自の特長的な事業スタイルを有効に活用できる原動力（人材）を確保するため、全社的な連携体制の強化と環境を整備し、自覚と責任かつ突破力を持って「変革」に挑む発想豊かな人材の育成に努め、かつてない規模と速度で変化しつつある経営環境に即応できる「住空間創造企業」を目指す

第12次
中期経営計画
基本方針

〈基本方針〉

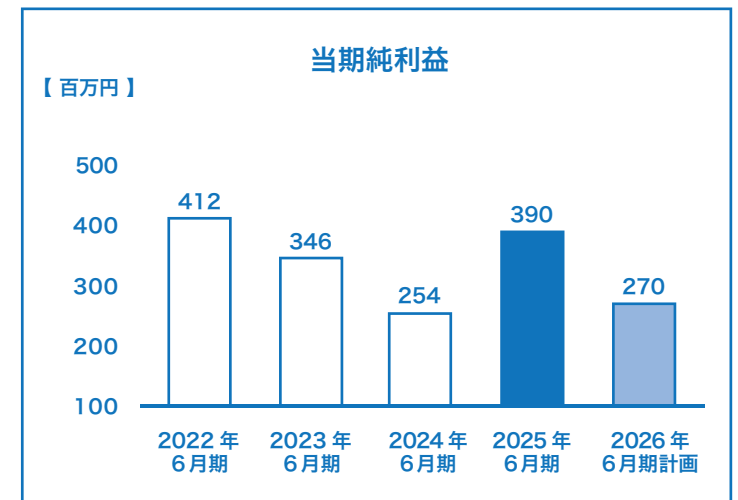
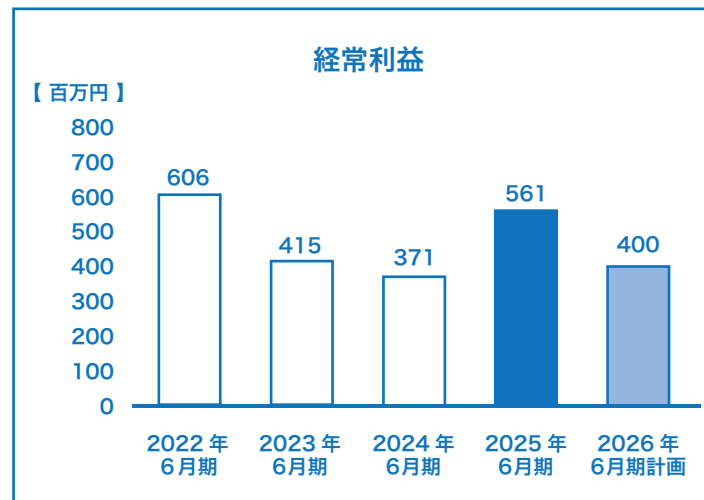
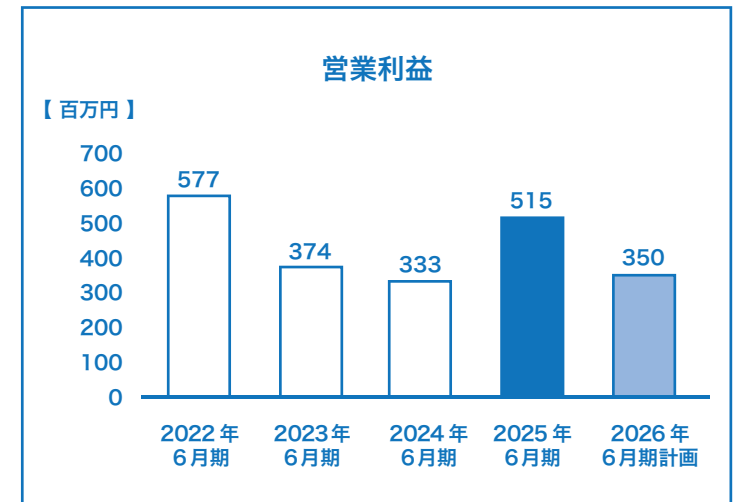
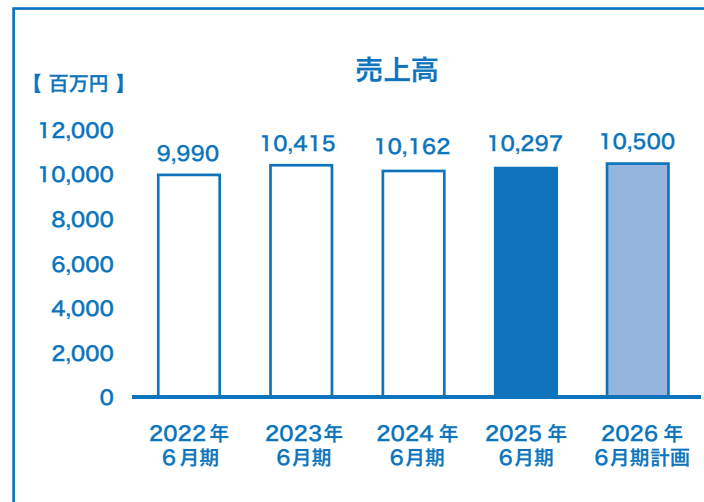
持続的成長に向けた 新たな付加価値の創出



＜行動目標＞

- 独自の機能を内包するソフトクローズ関連商品の発展性と全方位営業ネットワークの優位性を活かした周辺の事業領域と販路の拡大・拡充への取り組み
- 環境の変化に即応できる柔軟な技術開発力の強化
- 積極的に行動できる発想豊かな人材の育成
- 株主様との中長期的な信頼関係の維持

経営指標



- 2024年6月期 自己資本 10,150百万円 自己資本比率77.0%
- 2025年6月期 自己資本 10,430百万円 自己資本比率89.9%

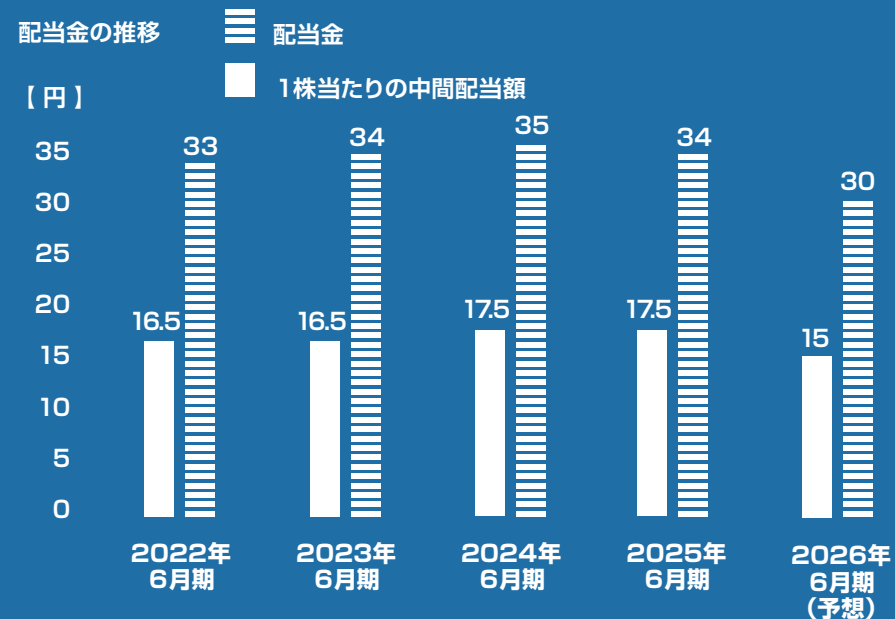
配当政策

【基本方針】

株主の皆様への利益還元を経営の最重要課題として捉え、積極的な配当を行う。

株主還元方針

- 「年間配当金は利益水準のいかんに関わらず、最低でも1株あたり30円を維持する」とともに5年を節目とする記念配当の実施を目標に掲げる
- 株主様への利益還元については業績の推移に応じて柔軟に検討・実施



IR お問合せ先

IR 担当 経営企画室

TEL：03-3876-3939

E-Mail：ir@atomlt.com

この資料に掲載されている業績見通し、その他今後の予測・戦略等に関わる情報は、この資料の作成時点において、当社が合理的に入手可能な情報に基づき、通常予測し得る範囲内で為した判断に基づくものです。

しかしながら現実には、通常予測しえないような特別事情の発生、または通常予測しえないような結果の発生等により、本資料記載の業績見通しとは異なる結果を生じ得るリスクを含んでおります。

当社と致しましては、投資家の皆様にとって重要と考えられるような情報について、その積極的な開示に努めてまいります。本資料記載の業績見通しのみに全面的に依拠してご判断されることは、くれぐれもお控えになられるようお願いいたします。

尚、いかなる目的であれ、当資料を無断で複写複製、または転送等を行わないようお願いいたします。

住まいの飾り職人

Atom
Livintech

アトムリビントック株式会社
